

妙安寺だより 法話特集号

仏説 桃太郎(2)

おじいさんとおばあさんと二人暮らしなのに、毎日、洗濯や芝刈りに出かけるということは、川は膝くらいまでの深さで流れも穏やかであることから、この川は三途の川〔 冥土へ行く途中にあって、死んで七日目に流れの違う三つの瀬があり、生前の業（行ない）によって渡る場所が違い、川のほとりには姥と翁がいて、亡き人の着物を奪うといわれている〕であり、芝刈りに行く山は、死出の山〔 死者が初七日の間に越えていかなければならない険難（危険で険しい）な山〕ではないかと想像すると、おばあさんは毎日死者の着物（江戸時代末までは、亡くなった人には生前好きだった着物、または一番良い着物を着せて吊った）を洗い、おじいさんは死者（生前、罪の浅い者）が行く、険難な山の整地に毎日励んでいたのではないかと思います。

また、川というのは、清流や濁流、流れが緩やかであり、暴れ龍といって急流となり全てのものを流してしまう。すなわち、私たちの紆余曲折な人生を表しているのです。

さらに、昔話におじいさんとおばあさんが登場する理由を考えて見ましょう。

これは、お年寄りを敬う・お年寄りの言うことを聞く・お年寄りを大切にすること。という考え方が出てきます。すなわち、お年寄りを敬うということは、中心になる人（主人・社長）を表し、お年寄りの言うことを聞くということは、指導者（先生・師匠）を表し、お年寄りを大切にすることは、両親・親を表しているのです。

日蓮聖人は、「夫（それ）一切衆生の尊敬すべき者三つあり。所謂（いわゆる）主・師・親これなり」（開目鈔）といわれているように、おじいさん、おばあさんは、主・師・親の三徳を表しているのです。

今の世の中には、このすべてが欠落されているようです。

次に、「おばあさんが洗濯していると、川上から大きな桃が流れてきました。おばあさんはこの桃を拾って帰り、おじいさんと一緒に食べようとして、桃を切ると中から男の赤ちゃんがでてきました」

ここで、注意すべき点は、おばあさんが洗濯していた川というのは、浅くて、流れも穏やかなところであるところから、赤ん坊が中に居ることを想像すると、非常に大きな桃で、川を流れてくるには不自然さを感じます。そこで、大きな桃というのは、たくさんの桃とするほうが自然的ではないでしょうか。

以下、次号へ

